

資料渉猟余話

その138

「明治二十三年、第一回衆議院議員選挙が行われた。この時の下伊那選挙区の当選者を答えよ」

「明治二十三年、第一回衆議院議員選挙が行われた。この時の下伊那選挙区の当選者を答えよ」

「明治二十三年、第一回衆議院議員選挙が行われた。この時の下伊那選挙区の当選者を答えよ」

「明治二十三年、第一回衆議院議員選挙が行われた。この時の下伊那選挙区の当選者を答えよ」

イミングを考えれば、立候補のあいさつという感じである。

伊藤大八は、第一回総選挙だけでなく、計五回の当選を果たしている。どの選挙も激戦を勝ち抜き、選挙上手の人だ

明治二十二年の『道徳論』若き伊藤大八の行動と道徳

竹村雄次

このようなローカル政治史を学ぶ機会が少ない。答えは伊藤大八である。

というのは、第一回衆議院選挙の下伊那選挙区は、伊藤の他に二人の候補者がいた。一人は松尾千

振。幕末に活躍した松尾多勢子の孫である。もう一人は、皆川四郎。皆川は、のちに渋沢栄一の片腕として財界で活躍する人である(ちなみに皆川の妻は、渋沢の妻の妹。来年の大河ドラマは、渋沢が主人公らしいが、皆川は出てくるだろうか?)。

この選挙は、政府対自由民権政党で争われた。多くの候補者が板垣退助の自由党の公認で出馬したと考えた。ところが



『道徳論 全』と第一回総選挙当選時の伊藤大八

ドに、個人の他者への対し方を説いている。その他者は、ま

「道徳論 全」を介して、学校で道徳を教える教師に向けて書いたもので、実際、飯田小学校(現追手町小)など、伊那谷の各校に寄贈された。選挙前という人がいるかもしれな